



進路だより～サクラサケ～

明桜館高等学校
進路指導部

令和4年6月23日発行

1 進路目標の実現に向けて

各部活動は九州高校総体等も終わり、1、2年生は次の大会に向け練習し、3年生はいよいよ自分の新路実現へ向けて具体的な取り組みを始めていると思います。目標達成のために、時には辛い時期を過ごしながらも、逃げることなく立ち向かってきた経験は、今後の大事な時期を過ごしていく3年生にとって、大きな支えとなるはず。言うまでもなく、部活動を引退したこの時期の気持ちの切り替えが、今後の伸びに大きく影響します。そして、日々の努力の積み重ねが、大きな結果の差につながるのです。

さて、現在3年生の先生方が中心となって会社訪問や大学・短期大学・専門学校等の学校説明会に参加し、今年の進路に関する情報収集を行っています。また、7月になると高校生対象の求人票が各事業所から学校に送付されてきます。なかには人事担当者が直接学校を訪問される事業所もあります。進学希望者対象には、4月から進学説明会やオープンキャンパスが開催されています。また、6月28日(火)～7月1日(金)に3年生にとって大切な期末考査もあります。それぞれの進路目標の実現に向かって、一生懸命に努力してほしいと思います。

就職希望者は、進路資料室に置いてある昨年分の求人票を閲覧し、進学希望者は進学説明会やオープンキャンパスに参加して学校研究を行い、進路実現に向けて準備を始めて行きましょう。1・2年生も、進路決定はまだ先のことだと思わないことが重要です。下記の就職編は求人票の内容、進学編は志望校の決め方などまとめてみました。

2 就職編 求人票に掲載されている主な内容は①～⑧です。



(1) 求人票・・・じっくり読んで、応募先を選びます。

- ① 会社の情報・・・所在地、従業員数、事業内容、職種を確認する。
- ② 就業場所・・・実際に働く場所。支社や工場、営業所がある場合など、所在地と就業場所は必ずしも同じではないので注意する。
- ③ 仕事内容・・・入社して実際にどのような仕事をするのか詳しく書いてある。
- ④ 賃金・・・基本給と手取りをプラスした額から税金や保険料などを引いた額が手元に入る。
- ⑤ 就業時間・・・職種などによって異なる場合がある。交替制のある職種もある。
- ⑥ 応募選考方法・・・応募の受付期間、選考月日、場所、選考内容が書いてある。
- ⑦ 補足事項・・・規定の項目内では書ききれなかったことや、知ってほしいことが書いてある。
- ⑧ 採用離職欄・・・過去3年間の新卒高卒者の採用状況・離職状況を確認できる。

(2) ミスマッチを防ぐために・・・応募前職場見学

せっかく採用されても、入社後「思っていた仕事と違う」、「職場の雰囲気合わない」等の理由でやめてしまう場合があります。受験を考えている企業を夏休み期間中に見学し職場を知ることも大切です。企業によっては日時を指定している場合があります。担任と進路指導部に早めに相談してください。

3 進学編

(1) オープンキャンパスへの参加・志望校の絞り込み

志望校を決める際には、学校を見学し施設設備、授業内容、資格取得状況、就職状況、学校周辺の環境、先生方、在校生の様子を見ることが重要です。

多額な学費を要する進学ですから、どのような学校を選ぶかは慎重に検討すべきことです。オープンキャンパスに参加すると、受験料の減免など入試の際の様々な特典がある学校もあります。



(2) 願書の取り寄せ

大学・短大・専門学校の願書は、自分で取り寄せるのが原則です。最近では、様々な入試が用意されているので、入試の詳細を把握し、受験準備は早めに取りかかりましょう。



(3) 入試のための準備

出願に必要な志望理由書・面接・小論文の準備には時間がかかります。時間のある夏休みの間に、先輩の受験報告書や過去問題、パソコンや新聞等で情報を収集し、学びたい分野についての知識を深め、文章で表現する練習を繰り返す必要があります。

4 オープンキャンパスに参加しよう

学校案内やホームページで調べても、実際に自分の目で見るのが大切です。また、実際に参加してみると、イメージしていた学校の雰囲気と違うということもよくあります。複数の学校を見ることによって雰囲気の違いや施設・設備、学習内容等を比較することができます。進学希望者は、自分の興味のある分野の学部・学科のある大学、短期大学、専門学校の中から少なくとも1校、できれば2校選び、参加してみてください。1校だけ見学し、学校の楽しげなところだけを見て「ここにしよう!」とか「ここでいいか」という気になってしまうのは危険です。複数の学校を見て冷静に比較・判断しなければなりません。ですから2年生のうちにも少なくとも2校、3年の夏までに少なくとも3校見学してみることをすすめます。

5 自宅学習について 中間考査期間に自宅学習時間調査を行いました。

※調査結果(抜粋) 数値は%

日付	学年	0分	~30分	~60分	~90分	~120分	~150分	~180分	180分以上
5月22日 (日)	1年	10.1	6.2	10.1	10.1	19.7	6.2	11.8	25.8
	2年	13.9	5.1	12.4	18.2	13.9	8.8	8.8	19.0
	3年	15.5	6.4	14.5	11.8	11.8	3.6	7.3	29.1
5月24日 (火)	1年	10.7	3.9	10.1	15.2	12.9	13.5	12.4	21.3
	2年	9.5	3.6	9.5	19.7	15.3	7.3	2.9	32.1
	3年	6.5	2.8	7.5	14.0	11.2	9.3	7.5	41.1

1学期中間考査は5月24日(火)~26日(木)の3日間行われました。

◇調査結果から

- 学習時間が0分の生徒がいる。日曜日は3年生が最も多く。考査初日は3年生が最も少ない。
→定期考査前の休日に自宅学習がゼロというのはなぜだろうか。総体前の部活動特別練習があったとしても、ゼロはあってはならないのではないか。
- 日曜日と考査初日はともに180分以上の生徒がどの学年でも最も多い。
→休日は最低6時間は学習時間を確保できるはずである。考査中も午前中に考査があるので、午後の時間を活用すれば最低6時間は確保できる。

◇期末考査へ向けて

- 「生活の記録」を活用しよう!
家庭学習時間の目標を設定し、具体的にどの教科・科目をどのように、いつ(何時から何時まで、何時間)学習するか計画を立てる。
- 学習時間を振り返る
学習時間が確保できない理由を考える。スマホの使用時間はどうか。睡眠時間もしっかり確保しなければならないので、普段の生活から削ることができることは何かを考える。

6 スマホについて

スマホを使えば使うほど学力が破壊されてしまう——。東北大学の川島隆太教授は、仙台市の中学生の生活・学習状況調査からそうした警告を発しています。川島教授によると、家で2時間以上勉強しても、携帯やスマホを3時間以上触っていると、その学習効果がムダになってしまうほどだそうです。実際のところ、スマホの利用と学力低下についての直接的な因果関係は明らかになっていません。しかし、学力低下の要因として考えられるものの一つが、スマホ利用によって生じる「睡眠不足」です。スマホで動画を観たり、ゲームをしている時間が長くなると、睡眠をとるべき時間が削られます。その結果、勉強への意欲や集中力の欠如のほか、論理的な思考ができなくなったり記憶にも支障が出るという弊害が起こると言われています。スマホに学習時間と睡眠時間を奪われていると感じたら、考査期間中だけでも、自宅では手元にスマホを置かない、家族に預けるなど試してみてもどうでしょうか。

